

平成 28 年 10 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン
代表理事 田口 京子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 企画名：JICA 北陸国際協力推進員会議、NGO-JICA 協議会、及び北陸 3 県への NGO 相談員アウトリーチ活動（形態：セミナー、会議への参加）
2. 実施者：(特活) 名古屋 NGO センター 門田一美、(特活) アイキャン 中村由実子
3. 日時：2016 年 9 月 5 日(月)～9 月 6 日(火)
4. 場所：以下、①は「国際協力推進員会議」会場、②は「NGO-JICA 協議会」会場、③は「NGO 相談員アウトリーチ活動」実施場所
 - ・9/5 (月)：①JICA 北陸（石川県金沢市本町 1-5-2）
②TKP 金沢駅前カンファレンスセンター（石川県金沢市広岡 3-1-25 YS ビル）
 - ・9/6 (火)：③-1 石川県 NPO 活動支援センター（石川県金沢市香林坊 2 丁目 4-30）
③-2 富山県民ボランティア総合支援センター
（富山市安住町 5-21 富山県総合福祉会館（サンシップとやま）3 階）
③-3 （公財）とやま国際センター（富山県富山市牛島新町 5-5 インテックビル 4F）
③-4 （公財）福井県国際交流協会（福井県福井市宝永 3-1-1）
③-5 福井市総合ボランティアセンター（福井市中央 1 丁目 2-1 ハピリン 4 階）
5. 参加者：①JICA 北陸職員 2 名、国際協力推進員 3 名、②NGO-JICA 協議会出席者（NGO 職員 19 名、JICA 職員 18 名）、③-1 石川県 NPO 活動支援センター職員 2 名、③-2 富山県民ボランティア総合支援センター職員 1 名、③-3 （公財）とやま国際センター職員 1 名、③-4 （公財）福井県国際交流協会職員 1 名、③-5 福井市総合ボランティアセンター職員 1 名

6. 実施報告：

①JICA 北陸国際協力推進員会議

JICA 北陸国際協力推進員会議において、NGO 相談員制度の概要や、主な相談対応の内容、出張サービスの事例を紹介した後、質疑応答、及び、北陸においてどのような連携ができるかについての意見交換を行った。相談員が、NGO や国際協力分野への就職に関する相談も受け付けていることや自主企画のセミナー等を行っていること、過去に青年海外協力隊の募集説明会において相談対応を行っていることなどを話したところ、「募集説明会の来場者は近年あまり多くはないが、

NGO 相談員によるキャリアセミナーのようなものを企画し、合同のイベントとして打ち出すことで、相乗効果を期待できるのではないか」といった意見も出た。また、協力隊員が帰国後の進路探しに悩むことが多いという、昨年度の JICA 中部推進員会議で出た意見を踏まえ、募集説明会だけではなく帰国報告会においても相談員として参加することで、帰国後の隊員及び報告会来場者の進路選択や国際協力活動の継続に役に立てるのではないかという提案もさせていただいた。時間も限られており、その場で今後の詳細を議論するところまでは至らなかったが、連携の可能性を見出すことができた。

②NGO-JICA 協議会

協議会の議事次第は詳細に組まれているため、会の前後や休憩時間に、北陸の NGO に相談員の紹介をする予定であったが、北陸から参加している団体がなく、その他の地域から参加している NGO や JICA 職員との情報共有が主となった。①の推進員会議には参加していなかった JICA 北陸の職員 2 名と、①で出た意見などを直接報告し、相談員との連携に対する前向きなコメントを頂くことができた。また、JICA 本部国内事業部の職員や他の NGO にも、相談員として北陸に来ており、どのような活動をしているかについての話を共有することができた。

③-1 石川県 NPO 活動支援センター (アイキャン)

事務所内には既に相談員のチラシが掲示され、ラックにも置いてあったが、内容についてはあまりご存知ではなかったため、職員 2 名に相談員制度や活用事例について紹介した。その後、本センターにおいて、NPO や市民からどのような相談があるかを伺ったところ、接点としては印刷機や会議室の貸し出しが主であり、活動についての相談を受けることはあまりないとのことであった。また、国際系の NPO では、モンゴルやカンボジア等の国に特化した団体があるが、自団体で運営ができており、もし相談があるとしても国際交流協会や JICA にまず話が行くということであった。NGO 相談員としては、これらの組織との連携を保ちつつ、各団体に直接働きかけることで、相談員として役に立てることがないか、ニーズを探ってみたいと感じた。

③-2 富山県民ボランティア総合支援センター (アイキャン)

職員 1 名に、相談員制度や活用事例について紹介した。本センターでは、NPO の設立相談会や助成金の説明会などを年に数回行っており、そういった場に集まる人が、多い時で 1 回 7~8 人くらいいるとのことであった。ただし、日常的に相談を受けるというよりは、これらの相談会、説明会の場に来てもらい、質問があればそこで対応するという形が多く、③-1 のセンター同様、国際協力関係の活動に関する相談は、JICA や国際センターのほうに行くとのことであった。最後に、本センターのある建物内のボランティア交流室に、相談員のポスターが掲示してあったが、ラックにチラシも置いてよいとのことであったため、市民の方に手にとってもらえるよう、設置させてもらった。

③-3 (公財) とやま国際センター (アイキャン)

富山県の国際協力推進員にも同席してもらい、本センター係長に、相談員制度や活用事例につ

いて紹介した。主にどういった質問や相談に対応しているか、最近増えているケースについての話の中では、NPO 法人と認定 NPO 法人の違いや、文科省のスーパーグローバルハイスクールに関する質問を受けた。同センターにおける市民からの相談としては、国際協力というよりも、在日外国人の方からの生活に関する相談が多いが、教育機関から出前講座の依頼を受けることがあるとのことであったため、日程や内容的に、青年海外協力隊 OBOG が対応することが難しいケースがあれば、NGO 相談員を活用してほしいとお伝えした。国際協力推進員とともに同センターと連携することで、講演やイベントなどの機会に相談員として貢献できればと思った。

③-4 (公財) 福井県国際交流協会 (名古屋 NGO センター)

福井県の国際協力推進員に同席いただき、同協会の相談員 1 名と意見交換を行った。NGO 相談員のチラシは掲示頂いているものの、制度の詳細はご存じなかったため、説明を行った。同協会においても、在住外国人 (留学生、日系人従業者、研修生として滞在するベトナム人) 等からの相談が大半であり、また、日本人からの相談としては、留学に関するものが多いとのことであった。また、NGO 活動では、特定の国との「友好協会」が多く、「協力・支援活動」の実施は、2、3 団体程度とのことであった。しかし、市内にあるフェアトレードショップには、関心のある方が集まることもあり、そうした地元で根を張る団体をキーとして、関心を広げられる可能性を感じることができた。また、同協会が年に 1 度開催するイベントでは、6,000 人ほどの来場者が見込まれており、文化交流団体や行事が多いものの、国際協力を知っていただく機会を作ることができるのではないかと思う。

③-5 福井市総合ボランティアセンター (名古屋 NGO センター)

福井市が今年 5 月に新しく設置したセンターであり、NGO 相談員制度については全くご存じない状況であったため説明を行った。同センターで今年度前半に実施した「ボランティアアカデミー」という講座の中で「国際」分野の人気の最も高かったとのこと。福井大学に新しく「国際地域学部」が設置され、学生の関心が高まっており、若者を中心に「ボランティアアカデミー」参加者が定員以上に集まったと伺った。そのため、今後実際に海外ボランティアを希望する方からの相談があった場合に、当団体に相談をお寄せ頂けるよう紹介をした。さらに、講座やイベントの企画時に相談頂ければ、出張サービスの利用が可能であることも紹介し、引き続き、連絡を取ることとなった。

<全体を通しての所感>

・名古屋 NGO センター

JICA 国際協力推進員との会議では、「青年海外協力隊」説明会においても、北陸地域の各県では参加者が 10 名以下になることもあると伺った。また、福井県で訪問した先でも国際協力に対する相談は少なく、厳しい状況であると感じた。しかし、「国際交流」・「海外」といったキーワードに関心を持つ層は潜在的に多く、働きかけ次第で、国際協力への関心や参加も高められるのではないかという期待も持った。大学や高校など若者への働きかけ、また国際交流イベントにて NGO を身近に感じて頂くなどの方法が可能ではないかと思う。

今回のアウトリーチ活動を通して、北陸地域の国際協力参加度をアップできる糸口を見つけることができたのではないかと思います。

・アイキャン

本出張を通して、北陸の国際協力推進員や JICA 職員、ボランティアセンター等の職員に、NGO 相談員制度についての理解を得ることができた。同時に、北陸地域においては、国際協力や NGO 活動がまだ浸透しておらず、今回訪問した中間支援組織も国際協力推進員も、市民や NGO から質問や相談を受けることがあまりないという実態が分かった。しかしながら、イベントにおける出展や合同企画の可能性を見出すことができたとともに、中間支援組織に対してではなく各県で活動する NGO や国際理解教育に取り組む学校に直接働きかけることで、まだ発掘できていないニーズを開拓できるのではないかと感じた。今回の各訪問先とは引き続き関係を維持していくとともに、NGO や学校への直接的な働きかけも積極的にしていきたい。

7. 写真

①JICA 北陸国際協力推進員会議



②NGO-JICA 協議会



③-1 石川県 NPO 活動支援センター（右写真赤枠内 2 カ所にチラシが設置してあった）



③-2 富山県民ボランティア総合支援センター



③-3 （公財）とやま国際センター



③-4 （公財）福井県国際交流協会



③-5 福井市総合ボランティアセンター



以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際理解学習「私」と「世界」とのつながりを知ろう
2. 実施者：陰山 亮子（特活）AMDA 社会開発機構
3. 日時：2016年9月6日（火）14:05～14:50
4. 場所：出雲市立西野小学校 699-0621 島根県出雲市斐川町富村 559
5. 参加者：
小学6年生 112人、教員 7人、小学校運営理事会メンバー2人
計 121人

6. 実施報告：

小学生が同窓生である海外駐在者から直接 NGO の活動現場及び途上国の状況を聞くことで、国際協力への理解の促進を図ることを目的にこの講演を実施した。

児童たちは、同年代の児童の生活環境を聞くことで、毎日学校に通えるのが当たり前だと思っていた自分たちの生活が、実は当たり前ではないということに気が付いたという感想が多かった。また、中には、日本政府の援助と NGO の現地での草の根の活動に触れた感想文もあり、きちんと話の内容が伝わったことが確認できた。

事前に出雲市をカバーするメディア 23社にプレスリリースを發出し、山陰中央新報社の取材を受け、翌日の朝刊に掲載されたものの、記事には制度についての紹介はなかった。

7. 別添（写真）



ホンジュラスの子どもたちの様子を説明



国際協力の様々な制度について説明



話しを聞く児童



先生方が民族衣装を着ることでより身近に感じてもらう

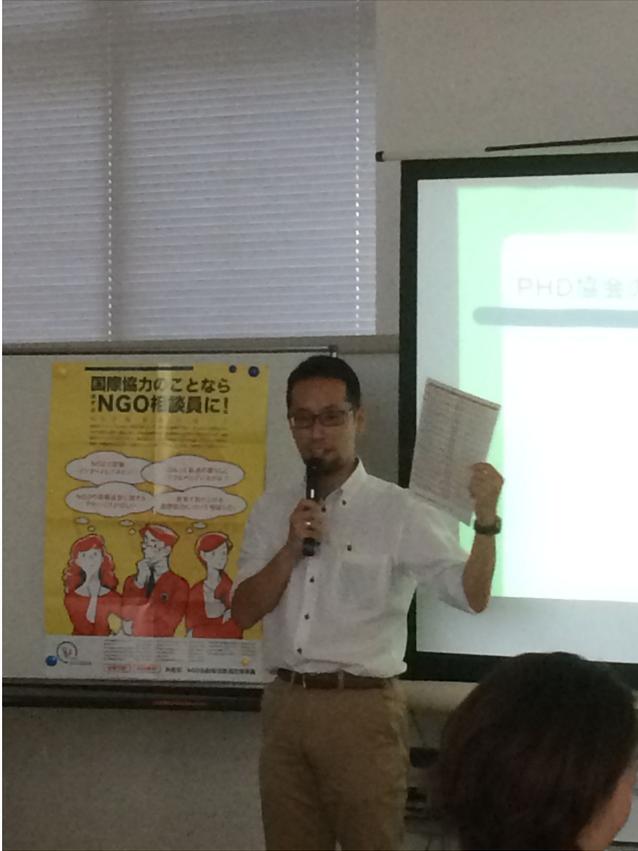
NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名:「NGO 組織強化の知恵」-PLAS の「働き方改善」に学ぶ
【形態: 相談対応サービス・ 講演・ セミナー・その他()】
2. 実施者: 坂西 卓郎(公財)PHD 協会
3. 日時: 2016 年 9 月 8 日(木)13:00~15:30
4. 場所: 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)セミナースペース
(東京都渋谷区神宮前 5-53-70)
(1)会場借料: 有・ 無
5. 参加者: 20 名
6. 実施報告: 国際協力NGOセンター(JANIC)が主催する「NGO組織強化の知恵」にてNGO相談員制度のPR、NGO相談員として働き方改善の事例提供、ファシリテーターとして参加者の質問を掘り下げる役を担った。参加者は20名であり多いとは言えないが、それぞれがNGOで管理職または総務に関わる職員であり、影響は大きかったと考える。

今回、セミナー内容としては関西で取り組んでいる「寿退社しないですむNGOづくり」の内容について紹介した。反応が大きかったのは業務の成果と給与の連動システムであった。この連動システムは各職員のモチベーションを維持する機能を持つが、NGOではまだ導入事例が少ないようで、終了後も質問を受けた。またその後メールでのやりとりもあり、当会のシステムを提供するに至った。次に質疑応答ではメインスピーカーであるPLAS(エイズ孤児支援NGO)の門田代表理事に坂西から投げかける形で進行した。質問が予想よりも多くテクニカルな部分に関しては答える時間がなかったのが後日対応することとしたが、組織強化に関する考え方、例えば「自宅勤務の是非」などについては深くシェアすることができた。

本イベントはJANICが主催する組織強化大賞とも連動しており、NGO相談員が目指すNGOの質向上に貢献できたと感じている。関西でもNGOの組織強化は大きなテーマであるので、今後は組織強化大賞の告知などに協力していくことで本出張サービスの成果を強化させていきたい。

7. 別添 (写真)



① 及び②NGO相談員の説明を行っている様子



③ 質疑応答で組織強化についての内容を深めている様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

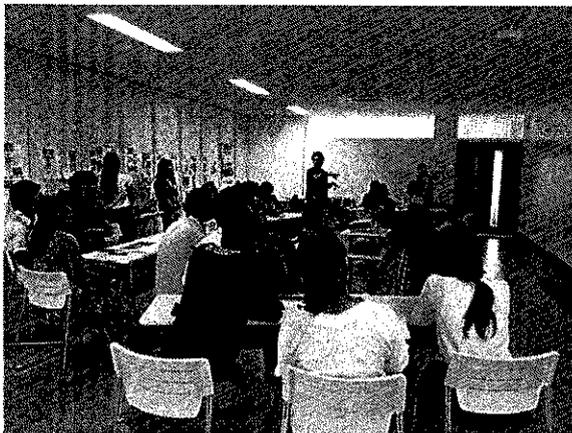
1. 企画名：ハイサイ！ハイタイ！どうしぐわ～ひと つなぐ まち～
2. 実施者：(特活) 沖縄 NGO センター
3. 日時：平成 28 年 9 月 11 日 (日) 午後 1 時 30 分～4 時
4. 場所：那覇市市民活動支援センター (那覇市銘苅 2-3-1)
5. 参加者：25 名
6. 実施報告：

県内在住の外国人と日本人が集い、地域在住者の多様なバックグラウンドについて共有し、地域の国際化、多文化共生、そしてボランティア活動についての情報共有、意見交換を行った。ゲストスピーカーとしてネパール人グループ ONFA は沖縄とネパールの懸け橋となるべく活動を行っているため、当センターは彼らの活動やネパール国について紹介し、地域への理解を広められたと考える。参加者は、小学生から 70 代の方と幅広く、地域で世界のことを考える機会、関心をもってもらう機会となった。

20 代の会社員の方から「これまでネパールについての知識や情報がなく関心もなかったが、ネパールの文化や国の様子、そして地震復興支援活動の話聞いて、興味をもった。」と感想をもらった。また参加していた中学校の教員から、「このような国際理解ワークショップを学校でも実施したい」という相談もあり、参加型ワークショップについて紹介した。

地域で世界のことを考えるワークショップをこれからも継続的に実施し、地域の国際化とともに国際協力への意識啓発につなげていきたいと感じた。

7. 別添 (写真)



NGO 相談員出張サービス実施報告書

2. 企画名：講演会 「世界の子どもたち・NGO で働くということ」
2. 実施者：LCA 国際小学校
3. 日時：2016 年 9 月 21 日（水）9:20-10:55
4. 場所：LCA 国際小学校（神奈川県相模原市緑区橋本台 3-7-1）
5. 参加者：合計 244 名（小学 1~2 年生 97 名、3~6 年生 120 名、教員 27 名）
6. 実施報告：

NGO 相談員として、LCA 国際小学校で実施される「Job Fair」という子どもたちが外部講師を通して仕事について話を聞くイベントの一環として NGO の仕事や途上国の子どもたちの現状を紹介した。小学 1~2 年生と 3~6 年生対象にした 2 つの時間帯で、体験型を含めた講演会を行い、1 時間目の 9:20~10:05 までが 1~2 年生対象、10:10~10:55 の 2 時間目が 3~6 年生対象となった。内容としては途上国の子どもたちを取り巻く課題を紙芝居形式の写真やケースストーリーで紹介し、参加者と同世代の途上国の子どもたちが安全な水を手に入れることが大変であることや、家族が厳しい状況にあり栄養のある食事が十分にできないこと等を説明し、参加者の日常生活が当たり前ではないことを説明した。

また、参加者が主体的に学びを深められるよう体験コーナー（途上国で実際に使用している道具を使った水汲み等）を実施した。2 時間目の中・高学年対象の時間では、NGO で働くことについて活動内容などを簡単に紹介した。質疑応答では、途上国の子どもたちの暮らしについて、食べ物や住居、また、学校生活についての質問が寄せられた。

7. 所感：

途上国の子どもたちを取り巻く課題について体験学習を取り入れながら紹介することにより、小学生の子どもたちが世界の、特に子どもたちの課題に目を向け、国際協力へ理解を深める機会とすることができた。水汲み等の体験学習は途上国の子どもたちの課題に実感を持って理解を深めることができ効果的であると感じた。「Job Fair」というイベント実施を通して様々な職業を知る機会は小学生が将来の選択をしていく中で有意義な経験になると感じた。NGO の仕事もその中で紹介されたことは素晴らしいことであった。

8. 別添（写真）



紙芝居形式のケースストーリー紹介。水汲み体験。先生がタンクを頭に乘せてくださった

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：身近にできる国際協力（KTC 中央高等学院松山キャンパス）
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ）】
2. 実施者：竹内 よし子（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 28 年 9 月 21 日（水）11：20～12：10
4. 場所：KTC 中央高等学院高松キャンパス（愛媛県松山市千舟町 4-4-3 松山 MC ビル 2F）
5. 参加者：高校 2 年生 15 名
6. 実施報告：本事業で昨年度作成した「グローバル・ローカルかるた」を活用してグループに分かれてワークショップを行い、国際・環境に関わる基本的な状況について情報提供を行った。その後、パワーポイントを使って「世界で起こっていること」について、世界の貧困・飢餓、日本の食品ロス問題について「数値」で世界の現状について紹介した後、具体的な国際協力活動の事例として、当団体のモザンビークにおける「銃を鋤へ」プロジェクトでの平和構築活動などについて紹介した。受講生には NG 相談員のチラシ、四国の NGO の取り組みをまとめた冊子「四国国際協力と ODA」を 1 冊ずつ配布し、情報提供を行った。当日は、KTC 中央高等学院のアレンジにより新聞社の取材があり、本制度の説明や「グローバル・ローカルかるた」に関する質問に対応し、広報につなげることができた。なお、本出張サービスの様子は愛媛新聞（9 月 22 日）にも掲載された。

[主な対応内容]

- ①相談内容 ESD に先進的に取り組む卒業校での国際理解教育に関わるボランティア活動に参加したい。
対 応 10 月に予定している小学校での国際理解の授業にボランティア参加してもらうよう、アレンジした。
- ②相談内容 高校生が参加できる国際協力活動やイベントについて、生徒に情報提供したい。
対 応 グローバルフェスタ、モザンビーク帰国報告会など、参加可能なイベントについて情報を提供した。

7. 別添 (写真)



かるたを活用したワークショップ



世界で起こっている国際・環境問題を紹介

【内容要約】
本日は、国際・環境問題をテーマに、かるたを活用したワークショップを行いました。参加者は、かるたを通して、世界の様々な問題について学びました。また、発表者からは、世界で起こっている国際・環境問題について紹介されました。今回のワークショップは、参加者にとって大変有意義な時間となりました。今後も、このような活動を通じて、国際・環境問題について学びたいと考えています。

- ① 国際・環境問題について学びたいと考えています。
- ② 発表者からは、世界で起こっている国際・環境問題について紹介されました。
- ③ 今回のワークショップは、参加者にとって大変有意義な時間となりました。
- ④ 今後も、このような活動を通じて、国際・環境問題について学びたいと考えています。

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

<概要>

企画名：『青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/秋募集説明会』における NGO 相談員ブース出展

イベントの種類：相談対応サービス

実施日時：平成 28 年 9 月 27 日（火） 19 時 00 分～21 時 00 分

出張者氏名：福島 美樹

主催団体名：

独立行政法人 国際協力機構 関西センター（JICA 関西）

公益社団法人 青年海外協力協会 近畿支部

場所：キャンパスプラザ京都

〒600-8216 京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939

<実施内容>

キャンパスプラザ京都にて、「青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/秋募集説明会」が開催され、国際協力や平和構築に関心のある学生や社会人、シニア層が約 50 名来場した。

弊会は、NGO 相談員コーナーを設置し、国際協力や NGO 全般に関する相談を受け付けた。大学の多い京都の特徴か学生の参加が多く、意欲的に相談員ブースを利用していた。

<集客人数または相談対応件数>

5 名 6 件

<所感及び効果等>

国際協力に関心の高い学生と社会人が、NGO 相談員コーナーを利用した。協力隊だけでなく、国際協力業界全般の就職やインターンシップに関心を持っているため、NGO への就職方法、インターンシップの具体的な受け入れ先など意欲的な質問が多数見られた。

また、協力隊帰国後の進路に関する相談が多かった。JICA が提供しているキャリアカウンセラー制度、帰国後の各サポート制度を紹介する他、NGO や一般企業への就職も提案し、相談者の進路に対する不安を解消できるように努めた。さらに、パートナーや JANIC など求人情報が掲載されているウェブサイトを紹介しながら、就職先の探し方を伝えた。

当日は、主催団体である「独立行政法人 国際協力機構 関西センター（JICA 関西）」と「公益社団法人 青年海外協力協会 近畿支部」のスタッフが大変協力的であり、ブース

の相談者が減ってくると、マイクを使って相談員ブースへの来場を呼び掛けてくれた。今後も協力して、国際協力業界全体の人材育成に貢献したい。

<活動風景（写真記録）>



相談対応の様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

平成 28 年 10 月 4 日 (火)
(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名 :

龍谷大学経済学部・法学部にて、

国際協力に関する講演とワークショップの実施

テーマ : 「持続可能な開発目標 (SDGs) と NGO の役割」

2. 実施者 :

①高橋 美和子 / (特活) 関西 NGO 協議会

②谷川 詩織 / 同上 (※ワークショップ補助、写真撮影)

3. 日時 :

①平成 28 年 9 月 28 日 13 時 15 分～16 時 30 分

4. 場所 :

龍谷大学経済学部 深草キャンパス 21 号館 407
(京都市伏見区深草塚本町 67))

5. 参加者 :

26 名

6. 実施報告 :

<内容>

「持続可能な開発目標 (SDGs) と NGO の役割」をテーマとし、世界の支援活動の潮流、日本の ODA、SDGs の策定背景や内容、特徴について講演、SDGs をテーマとしたワークショップを実施した。ワークショップでは「スマホの真実」を上映し、紛争資源と私たちの豊かな生活のつながりを考え、持続可能な社会の実現に向けて、SDGS のターゲットに照らし合わせながら、グループに分かれワー

ワークショップを実施した。

<所感>

SDGs については、国際協力の潮流や NGO の活動等、概論について講義した後、その内容を自身の生活と引き付けて考えられるよう、『スマホの真実』の上映と併せたワークショップを実施した。講義を聞くだけではなく自分たち自身で、日々の暮らしと国際課題がどのようにつながっているのかを考え、国際協力について考える機会を工夫し提供した。参加型のワークショップは好評であり、特に身近なアイテムであるスマートフォンを題材としたため、熱心に議論に参加する大学生が多かった。

本講義のあとは、実際に海外の紛争現場で支援活動を展開している団体が引き継ぐことになっており、二段構えの形にしたことで、より深い学習と、国際課題や国際協力への関心を醸成することを期待している。

しかしながら、クラスの中には、NGO と JICA の区別がつかない生徒や、NGO=ボランティアと考えている学生もあり、国際協力や実施機関のイメージは未だ漠然としたものである。大学に入る前の、もう少し早い段階から、国際協力や ODA、国際協力に係る実施機関に関して概念整理をする必要があると思われた。

7. 別添（写真）



当日講演の様子 相談員：高橋美和子

以上